

16 おわりに

あれから6年が過ぎようとしている。

富岡から移り草野の地で教育活動を再開し、今、本校は新たなステージに立つ。

それは、来年度から中学部と高等部が四倉高等学校内に分校舎を設けて教育活動を行う。

二つの離れた校舎で一つの学校としての学びを展開する。

これは、また、小学部と中学部・高等部が一つにまとまるためのステップでもある。

振り返る6年。

子ども達が減少しこのままでは本校の存続も危ない状況があった。

しかし、子どもが少ない状況を本校の強みとし、一人一人の教員が一人一人の子どもを知り理解している学校。

そして、一人一人の教員が一人一人の子どもに適切な丁寧な指導や関わりを通して、子ども達の力を育む学校。

いわきの地で本校の存在が少しずつ認められるようになり、それが今の本校の子ども達の増加につながっている。

これからX年。

本校は二つの離れた校舎で一つの学びを展開する。

子どもの学び、教師の指導や関わり、関係機関との情報など「つなげる」をキーワードに研修を進める。

本校の教員一人一人がその状況を理解し、やがて小学部と中学部・高等部が一つにまとまることを意識した教師集団としてつながる。

それが本校の強みとなる。

教頭 香取 重治

